

## 2019 年度課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：薬剤情報リテラシー教育研究会

設置期間：2017/04-2021/03

代表幹事の氏名・所属：池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

幹事の氏名・所属：

岡橋 孝侍	京都第二赤十字病院（JAMI 評議員）
木下 元一	名古屋第二赤十字病院（JAMI 評議員）
小枝 伸行	八尾市立病院（JAMI 評議員）
関谷 泰明	岐阜県総合医療センター（JAMI 評議員）

活動成果の概要：

本年度は薬剤領域の情報システムの課題の中でも特にアレルギーに関する内容を取り上げ、医療情報学連合大会ならびに薬学領域の学会でのシンポジウムを行った。さらに、薬剤情報リテラシーの現状を把握するために本研究会で行ったアンケート調査の結果を医療情報学連合大会にて発表した。

第 39 回医療情報学連合大会（第 20 回医療情報学会学術大会）

共同企画 10

医薬品の安全使用を担保する医療情報システム ～薬剤オーダと患者プロフィール情報～

オーガナイザー：木村 雅彦（保健医療福祉情報システム工業会）

池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

座長：木村 雅彦（保健医療福祉情報システム工業会）

池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

医薬品の安全使用を担保する医療情報システム－薬剤オーダと患者プロフィール情報－

土屋 文人（前国際医療福祉大学）

医薬品の安全使用を担保する医療情報システム～薬剤オーダと患者プロフィール情報～

兵 昂（キヤノンメディカルシステムズ株式会社）

適正な医薬品アレルギーチェックを行うための取組みと今後の課題

白井 隆文（日本電気株式会社）

患者プロフィールと医療安全に関する電子カルテシステムにおけるチェック機能の現状と課題

大野 真由（日本アイ・ビー・エム株式会社）

医薬品の安全利用に向けた患者プロフィール情報の活用への取り組み

和田 叔子（富士通株式会社）

ポスター発表

薬剤関連の情報リテラシーの現状と課題－薬剤情報リテラシー教育研究会 調査報告－

池田 和之（奈良県立医科大学附属病院薬剤部）

第 29 回日本医療薬学会年会

シンポジウム 7

避けてはとおれない電子カルテや調剤システムのリプレース

～その時薬剤部門では何が起こるのか～

オーガナイザー：小枝 伸行（八尾市立病院）

若林 進（杏林大学医学部附属病院）

座長：若林 進（杏林大学医学部附属病院）

荒 義昭（独立行政法人国立病院機構埼玉病院）

避けてはとおれない電子カルテや調剤システムのリプレース

～成功事例、しくじり事例から学ぶ～

若林 進（杏林大学医学部附属病院薬剤部）

その機能、ホントに要りますか？～システム更新時の取組み～

岡橋 孝侍（京都第二赤十字病院薬剤部／医療情報室）

AI 時代における薬剤部門システムの更新事例～システムに使われないために

佐藤 弘康（J A 北海道厚生連帯広厚生病院薬剤部）

システム更新は、新業務構築と問題整理のチャンス

木村 好伸（草加市立病院薬剤部）

どうする医薬品オーダ？～一回量、用法標準化のススメ～

池田 和之（奈良県立医科大学附属病院薬剤部）

シンポジウム 19

患者のアレルギー・副作用を上手に管理するためのエッセンス

～副作用の発見から管理、報告まで～

オーガナイザー：小枝 伸行（八尾市立病院）

関谷 泰明（独立行政法人岐阜県総合医療センター）

座長：木下 元一（名古屋第二赤十字病院）

高田 敦史（九州大学病院／独立行政法人医薬品医療機器総合機構）

副作用等報告制度の概要と報告された情報の利用等について

岩崎 麻美（独立行政法人医薬品医療機器総合機構

安全性情報・企画管理部情報管理課）

どんな副作用を報告すべきか？副作用報告の臨床における活用方法

土屋 雅美（宮城県立がんセンター薬剤部）

副作用情報の収集とデータの活用について

望月 伸夫（国立がん研究センター東病院薬剤部）

早期発見に向けた副作用情報の収集活動と今後の取り組み

男全 昭紀（横浜市立みなと赤十字病院薬剤部）

薬剤部における副作用の一元管理とシステム管理上の問題点

高橋 正明（社会医療法人若竹会つくばセントラル病院）

活動成果の発表：

[学会発表] 計 1 件

[その他] 計 3 件